

水滸伝を知る

漢

たちから学ぶ

第九回

加来耕三
(歴史作家)

構想10年、総製作費55億円、空前のスケールで完成した『水滸伝』（計86話）は、三種類ある『水滸伝』の内、オリジナル・スタンダード1100回本を原作としている。70回までが英雄豪傑が梁山泊へ集い、その数が108人になるまでを描いている（第70話）。以後は朝廷への「招



6月5日発売DVD「水滸伝」より

彼らは何のために再生したのか!?

安（皇帝への帰順）をめぐっての戦いの物語となっている。

総頭領の宋江は、多くの仲間が反発しても「招安」の意志を貫き通した。

実はここに、108人の主題があったからだ。

「天に替わりて道を行おう」——これは梁山泊の旗印であったが、第42回に宋江が道教の女神・九天玄女と出会う場面がある。このとき彼女は宋江を「星主」と呼び、彼が天界の神であったことを明かし

ている。

かつては天界の神々だったものが、下界に再生したのは、「魔心」を起こした罰であり、再び天界にもどるためには、下界で邪を去って正に帰する生き方を完成しなければならぬ、と述べている。

これこそが朝廷に帰順して、平和のために戦う根拠であった。いずれは紫府（天宮）に帰れるのだから、と九天玄女はいう。確かに、108人はやがて天界、地中へ帰っていく。